

艦内號令詞

達第十二號

艦内號令詞別冊ノ通改正ス

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配布セシム

昭和六年一月二十六日

海軍大臣 男爵 安保 清種

艦内號令詞

艦内號令詞目次

總則

第一

整列集合ニ關スル部

一頁

（總員整列（集合））

五

總員ノ非常呼集

五

水兵員整列

六

兩舷直整列

六

當直整列

七

非番直整列

七

事業部整列

七

兩舷直、機關員整列

八

十九	分隊員整列	八
二十	各分隊若干名整列	九
十一	特修兵整列	九
十二	軍樂隊整列	一〇
十三	戰鬪編制ニ依ル人員ノ整列	一〇
十四	固有短艇員整列	一一
十五	臨時編制短艇員整列	一一
十六	衛兵整列	一一
十七	役員整列	一二
十八	上陸員整列	一二
十九	整列ノ暇ナキ急速人員ノ呼集	一三
第二	儀制ニ關スル部	一五

第三	滿艦飾索ノ張脱	一五
二	滿艦飾(艦飾)揚ゲ(卸シ方)	一六
三	軍艦旗揚ゲ(卸シ)方	一七
四	總衛兵禮式	一八
五	衛兵禮式	一九
六	總員禮式	一九
七	登舷禮式	二〇
八	禮砲用意	二一
一	日課週課ニ關スル部	二三
二	起床釣床收メ方	二三
三	釣床卸シ方	二四
四	露天甲板洗ヒ方	二四

大掃除	一五
甲板譜掃除	二七
諸覆ノ裝脱	二八
洗面	二九
就食	二九
診察	三〇
服裝	三〇
武器、銃器及金物手入	三一
課業ノ開始、休憩、再始、終結	三三
別科ノ開始、終結	三三
航海中水兵員ノ當番交代	三四
航海中晝間水兵員ノ當直交代	三五

航海中夜間水兵員ノ當直交代	三五
釣床乾シ(收メ)方	三六
釣床換へ方	三八
物乾索ノ張脱 <small>(柄ニ張ル場合)</small>	三九
物乾索ノ張脱 <small>(柄以外ニ張ル場合)</small>	四〇
洗濯	四一
洗濯物乾シ(卸シ)方 <small>(乾索ニ洗濯間ニ張リタル物)</small>	四一
洗濯物乾シ(卸シ)方 <small>(リップヂローブ等ニ洗濯被服ヲ乾ス場合)</small>	四一
洗濯物乾シ(卸シ)方 <small>(床又ハ被服ヲ乾ス場合)</small>	四三
濡物乾シ(收メ)方 <small>(雨天等ノ後濡物ヲ乾ス場合)</small>	四四
索具飾リ方及其ノ復舊	四五
軍事點檢	四五
初夜巡檢	四五

二十八	分隊點檢	四六
二十九	艦內點檢	四六
三十	倉庫(彈火藥庫)點檢	四七
三十一	銃器點檢	四八
三十二	武器點檢	四八
三十三	短艇點檢	四九
三十四	鈎床括り方點檢	四九
三十五	寢具點檢	五一
三十六	洗濯鈎床點檢	五三
三十七	甲板器具點檢	五四
三十八	被服點檢	五五
三十九	游泳	五五

四十 身體檢查 五六

第四 部署ニ關スル部

一	總短艇出入	五七
二	總員乘艇	五七
三	防火	五九
四	防水	六〇
五	防火隊派遣	六二
六	潛水器準備	六二
七	溺者救助	六三
八	出港	六四
九	入港	六七
十	橫付	七二

- 十一 人力操舵 七三
 十二 霧中航行 七四
 十三 舟船被曳船 七四
 十四 荒天準備 七五
 十五 鐨搬出 七五
 十六 載炭準備 七六

第五 運用ニ關スル部

- 一 鐨鎖伸シ(縮メ)方 七七
 繫船桁出シ(收メ)方 七八
 「デリヲタ」ノ使用 七九
 短艇揚ゲ(卸シ)方〔ダビット〕ニ釣ル
短艇ノ場合 八一
 短艇出シ(入レ)方〔ダビット〕ニ釣ル
短艇ノ場合 八四

第六 雜ノ部	一 操舵	六
	二 速力及回轉數呼唱	七
	三 測深	八
	四 移動物ノ固縛及解縛	九
	五 窓ノ開閉	一〇
	六 天窓ノ開閉	一一
	七 短艇ノ準備	一二
	八 提燈ノ準備	一〇四
	九 風速入レ(直シ)(收メ)方	一〇五

八 風取出シ(收メ)方	一〇五
九 軍歌	一〇六
十 武技(體技)	一〇六
十一 被服手入	一〇七
十二 備給(何々)渡シ方	一〇七
十三 取上ゲ物渡シ方	一〇八
十四 酒保開始	一〇八
十五 入浴	一〇九
十六 衛生酒渡シ方	一〇九
第七 機關科特用ノ部	一一一
一 日課	一一一
二 航海	一一一

三 當直	一一〇
四 雜	一一一
第八 信號法ニ關スル部	一一三
一 手先信號法	一一三
二 小旗信號法	一一三
三 燈火信號法	一一三

艦内號令詞

總則

第一 軍艦内ニ於テ用フル號令詞ハ本冊ニ據
ルモノトス

第二 戰鬪ニ關スル諸部署、操式及教範等ニ
據ル號令詞ハ之ヲ本冊ニ記載セズ

第三 本冊所載ノ號令詞ヲ以テ盡サザルトキ
及艦ノ構造艤裝定員等ニ依リ本冊所載ノ號
令詞ヲ適用シ難キトキハ適宜之ヲ斟酌取捨

シ又ハ告諭ヲ以テ號令ニ代フルコトヲ得

第四 本冊所載ノ號令詞ハ軍艦以外ノ艦船、
部隊學校ニ之ヲ準用ス

第五 本冊所載ノ號令詞中喇叭譜ノ制アルモノ〔右側ニ○符ヲ附ス〕ハ號音ヲ併用スルヲ例トス但シ一作業中他ノ作業ヲ實施シ之ガ復舊ニ際シ號音ヲ用フル爲誤解ヲ生ズル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六 本冊所載ノ號令詞中「總員」トハ特ニ其

ノ範圍ノ規定ナキ場合ニ於テハ直接作業ニ關係ナキ准士官以上及現ニ當直勤務ニ服シアル者ヲ除キタル全乗員ヲ謂フ

第七 號令ニ依リ人員ヲ使用若ハ整列セシメタルトキハ用件ヲ終リタル後「解レ」ヲ令シ人員ヲ解散セシムルヲ例トス但シ本冊ニ於テハ要スルモノノ外之ヲ記載セズ

第八 運用作業ノ指揮ニ當リテハ努メテ手先、小旗、燈火信號法ヲ活用シ以テ作業ノ

靜肅圓滑ヲ計ルヲ要ス

總則

四

第一 整列集合ニ關スル部

號	令	詞	備	考
總員	整列	(集合)		
總員	整列	(集合)		

○
員
整
列
(集
合)

現ニ當直勤務ニ服シアラザル總員ハ定所(又)
ニハ指定場所以下同ジス
整列(集合)ス

二 總員ノ非常呼集

總員上へ

現ニ當直勤務ニ服シアラザル總員ハ定所(又)
ニハ指定場所以下同ジス
整列(集合)ス

員ハ急速露天甲板ニ出
ヅルモノトス

[註] 本號令ハ艦長ニ限リ之ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

三 水兵員整列

水。兵。員。整。列。

現ニ當直勤務ニ服シア
ラザル水兵員ハ定所ニ
整列ス

[註]

機關員、軍樂員、看護員、主計員、傭人又ハ特務員等
ヲ整列セシムル號令詞ハ之ニ準ズ

四 兩舷直整列

兩。舷。直。整。列。

兩舷直ハ定所ニ整列ス

五 當直整列

當。直。整。列。

當直ハ定所ニ整列ス

六 非番直整列

非。番。直。整。列。

非番直ハ定所ニ整列ス

七 事業部整列

事 業 部 整 列

當直員中事業部ニ該當スル者ハ定所ニ整列ス

八 兩舷直、機關員整列

兩舷直、機關員整列

務ニ服シアラザル機關員ハ定所ニ整列ス

〔註〕水兵員ト機關員、兩舷直ト機關員特務員ノ如ク二種以上ノ人員ヲ整列セシムル號令詞ハ之ニ準ズ

九 分隊員整列

第 何 分 隊 員 整 列

現ニ當直勤務ニ在ル者ヲ除キタル指示分隊員ハ定所ニ整列ス

〔註〕分隊番號呼唱ハ左記ニ據ル
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十
 特ニ定メラレタルモノノ外數ノ呼唱ハ以下之ニ倣フ

十 各分隊若干名整列

各分隊若干名整列

當該艦ノ定ムル各分隊ヨリ若干名宛ノ兩舷直員定所ニ整列ス

十一 特修兵整列

特修兵（掌砲兵）整列

現ニ當直勤務ニ在ル者ヲ除キタル特修兵（掌砲兵）ハ定所ニ整列ス

[註] 他ノ特修兵ヲ整列セシムル號令詞ハ之ニ準ズ

十二 軍樂隊整列

軍樂隊整列

軍樂隊ハ軍樂器ヲ携帶シテ定所ニ整列ス

十三 戰鬪編制ニ依ル人員ノ整列

砲員（某砲員）整列

現ニ當直勤務ニ在ル者ヲ除キタル固有各短艇員（某艇員）ハ定所ニ整列ス

[註] 他ノ戰鬪編制ニ依ル人員ヲ整列セシムル號令詞ハ之ニ準ズ

十四 固有短艇員整列

短艇員（某艇員）整列

現ニ當直勤務ニ在ル者ヲ除キタル固有各短艇員（某艇員）ハ定所ニ整列ス

十五 臨時編制短艇員整列

當直艇員（救助艇員）
(特別短艇員)（某艇員）整列

臨時編制セラレタル指
示短艇員ハ定所ニ整列ス

十六 衛兵整列

衛兵（第何直衛兵）整列

現ニ當直勤務ニ在ル者
ヲ除キタル當直舷衛兵
全部（指示直衛兵）ハ定所ニ
所ニ整列ス

十七 役員整列

役員（食卓番）整列

役員（食卓番）ハ定所ニ
整列ス

〔註〕他ノ役員ヲ整列セシムル號令詞ハ之ニ準ズ

十八 上陸員整列

一、入湯（半舷）上陸用意

上陸員ハ上陸準備ヲナ
ス

二、上陸員整列

上陸員ハ定所ニ整列ス

十九 整列ノ暇ナキ急速人員ノ呼集

當直（何々）前甲板（某所）

當直（何々）ハ急速前甲
板（某所）ニ集合ス

右ニ掲グル以外ノ人員ヲ整列（集合）セシムル
ニハ之ニ準ズル號令詞ヲ以テス

第二 義制ニ關スル部

號	令	詞	備	考

一、滿艦飾索ノ張脱

一、當直(何々)

カザリヅナハ
満艦飾索張リ(ハヅ) 方

二、登リ 方用意

各檣ニ水兵若干名宛ヲ
登ラシム

三、下リ 方用意

五、下レ

二、満艦飾(艦飾)揚ゲ(卸シ)方

一、當直(何々)
マンカンショク

満艦飾揚ゲ(卸シ)方
ムンカンシヨク

二、登リ方用意
ドウリカヨウイ

三、登レ
カザリヅナトオロシヅナ

四、満艦飾索把レ引卸索守レ
ムンカンシヨクサハラシヨクサムラシ

前満艦飾揚揚(卸下)時刻
ハ煙突ニモニ水兵若
干名宛ヲ登ラシム
但シ軍艦ニアリテハ登
橋員ヲ豫メ橋櫓迄登リ
置カシムルヲ例トス

(引卸索把レ・満艦飾索守レ)

五、張り合セ「卸シ方ニハ用ヒズ」

六、揚ゲ(卸セ)

七、下リ方用意

八、下レ

飾旗ノ艦外ニ見ハレザ
ル限リ張り合ス
満艦飾掲揚(卸下)時刻
ニ之ヲ令ス但シ軍艦旗
ト同時ニ満艦飾ヲ掲揚
(卸下)スルトキハ此ノ
一號令ヲ以テシ各別ニ
令スルコトナシ

[註] 艦飾揚ゲ(卸シ)方ニハ「艦飾揚ゲ(卸シ)方」ノ號令詞ヲ用フ
ルト四、五ノ號令詞ヲ用ヒザル外之ニ準ス

三、軍艦旗揚ゲ(卸シ)方

一、軍艦旗揚げ（卸シ）方

二、揚
ゲ
(卸
セ)

四 總衛兵禮式

一、總衛兵體式整列。

衛兵ハ禮式ノ爲定所又ハ指示サレタル位置ニ整列シ指定掌信號兵

(軍樂隊)ハ其ノ先頭ニ
位置シ衛兵司令之ヲ指
揮ス

五衛兵禮式

一、衛。
兵。
禮。
式。
整。
列。

二、解

六總員禮式

第二 機糊ニ關スル部

揮ス **整列**シ **衛兵伍長**之ヲ **指**ハ **指示**サレタル **位置ニ** **ハ** **禮式ノ爲定所又**

揮ス **整列**シ **衛兵伍長**之ヲ **指**ハ **指示**サレタル **位置ニ** **ハ** **禮式ノ爲定所又**

一、總衛兵禮式整列
二、總員禮式整列
三、解レ。

七 登舷禮式

一、登舷禮式用意
二、登レ。

各員ハ準備集合所ニ登列ス
總員「准士官以上並ニ
衛兵掌信號兵(軍樂隊)」
各員ハ準備集合所ニ登列ス
總員ハ定位置ニ

三、下
四、下。リ
五、解。レ。リ

方用意

ヲ含ム」定位置ニ就ク

各員準備集合所ニ復ス

[註]

一、登舷員ハ特令ナケレバ外方ニ向キ要スルトキハ
「船首(艦尾)ニ向ケ」「右(左)舷ニ向ケ」等ヲ令
シ爾後轉向目送セシム
二、禮式令ニ依ラズシテ送迎ノ爲人員ヲ登舷セシム
ル場合ニハ「總員(何々)登舷用意」ト令スル外登
舷禮式ニ準ズ

八 禮砲用意

一、禮砲員 禮砲用意
二、禮砲員 砲ニ就ケ

禮砲ヲ用意シタル後一
時解散シタル場合更ニ
整ヘ砲ニ就カシムルトキ

ツ
ニ用フ
禮砲ニ就カシムルトキ

第三 日課週課ニ關スル部

一 起床釣床收メ方

號

令

詞

備

考

一、總員起。

シ。

二、釣床掛配置ニ就ケ
三、總員釣床收メ。

メ。

特令ナキ限り起床ニ引
續キ釣床ヲ括ルモノト引
航海上ハ起床時十五分
前ニ「釣床掛釣床括レ」
ヲ令ス
甲板士官ヨリ「配置宜
シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令

四、當番釣床收メ

准士官以上及當番釣床ノ者ノ釣床ヲ收ム

二釣床卸シ方

一、當番釣床卸セ
二、釣床掛配置ニ就ケ
三、總員○釣○床○卸○セ○

甲板士官ヨリ「配置宜
スシ」ノ報ヲ得テ之ヲ令

三露天甲板洗ヒ方

一、兩舷直(何々)露天意用方ヒ洗板甲
二、兩舷直(何々)露天ヘ洗板甲
三、解レ。

甲板士官ヨリ「甲板宜
スシ」ノ報ヲ得テ之ヲ令

四大掃除

一、兩舷直(何々)前後(某)
甲板洗ヒ方(砂摺)用意

二、兩舷直(何々)前後(某)

甲板洗ヘ(砂摺)

三、解レ。

四、艦内大掃除用意

五、總員衣囊上ゲ

六、總員居住甲板大掃除

七、事業部(何々)分隊要具砂摺

甲板士官ヨリ「甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

甲板士官ヨリ「衣囊上ゲ方用意宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「大掃除用意宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「居住甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
適宜ノ時機ニ之ヲ令ス

八、兩舷直(何々)最上(某)

甲板洗ヘ(砂摺)

九、解レ。

十、總員衣囊收メ

十一、事業部(何々)分隊要具收メ

甲板士官ヨリ「甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

五 甲板諸掃除

甲板(某甲板)流セ

甲。 甲 甲
板 (某 甲 板)
板。 (内 絃)
掃。 拭 掃ハ
除。 へ ケ

居 居○
住 住○
甲 甲○
板 板○
掃 拭○
キ ヒ○
掃 掃○
除 除○

〔註〕右ノ號令詞ニハ適宜「兩舷直」、「當直」、「非番直」等ノ
語ヲ冠スルモノトス但シ當直ニテ定時甲板掃除ヲ
行ヌトヤハ一々「當直」ヲ冠セバ

六 諸覆ノ裝脫

武 器 覆 脱 レ (乾セ)
昇 降 口 覆 脱 レ (乾セ)
(掛 ケ) (備 ハ)
昇 降 口 覆 帷 上 ゲ (卸セ)

武器覆ト合併シテ下ス
コトヲ得

〔註〕右ノ號令詞ニハ當直ニテ行フ場合ノ外適宜「兩轉直」、「非番直」等ノ語ヲ冠スルモノトス

七洗面

顏洗

八就食

第三 日課週課ニ關スル部

上甲板(某甲板)ノ溜リ
水ヲ除ク場合ニ此ノ號令ヲ下ス

一、總員手ヲ洗へ
二、食事。

九 診察

診察。

十 服裝

事業服（第一種軍裝）（第二種軍裝）
(掃除服)ニ著換へ。

足	雨	脚	雨	服
袋	衣	衣	章	裝
ノ	ギ	ギ	ツ	其
モ	佩	佩	ケ	ノ
ノトス	(外)	(外)	(脫)	儘
	套	套	レ	
	著	用		
	ケ	意		
	ケ			
	履			

一個佩用スル場合ニハ
特令スルモノトス

〔註〕右ノ號令ニハ必竟ニ應ジ「總員」、「上陸員」等ノ語
ヲ冠シ又「上白下紺(上クロシシヨロ)」等ヲ併セテ令スル
モノトス

十一 武器、銃器及金物手入

一、當直（何々）金物手入

二、銃（何々）金物手入

器

器

三、銃（何々）金物手入

四、銃（何々）金物手入

五、銃（何々）金物手入

物

器

器

收

手

入

止

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

メ

〔註〕

銃器手入、武器手入、又ハ金物手入ノ一部ノミヲ行

フトキハ右ニ準ジ取捨シテ號令スルモノトス

甲板士官ヨリ

ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

ノ報リ

居住甲板宜シ

金物宜

定例時ニ於テ銃器ヲ手

行

スシ

甲板士官ヨリ

ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

ノ報リ

居住甲板宜シ

金物宜

定例時ニ於テ銃器ヲ手

行

スシ

甲板士官ヨリ

ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

ノ報リ

居住甲板宜シ

十二 課業ノ開始、休憩、再始、終結

一、課業始直

二、休憩整列メ、兩舷直

三、元課業止ニ就ケ

四、課業休止メ

此ノ號令ニテ喫煙ヲ許
スヲ例トス

十三 別科ノ開始、終結

一、別科始メ

二、解レ。

〔註〕

必要ニ應ジ從事スペキ人員及實施ノ科目ヲ併セ令ス

十四 航海中水兵員ノ當番交代

一、交代員整列

二、交代レ

當直傳令員ヨリ「交代
令ス」ノ報ヲ得テ之ヲ
當直傳令員ヨリ「交代
令ス」ノ報ヲ得テ之

現ニ當直勤務ニ服シアル者ヲ除キタル總員ハ
定所ニ整列シ別科ヲ開始ス

三、解レ

十五 航海中晝間水兵員ノ當直交代

右(ミギ)（ヒダリ）(ヒダリ)左(グン)舷當直

當直交代レ

當直傳令員ヨリ「交代
令ス」ノ報ヲ得テ之ヲ
當直傳令員ヨリ「交代
令ス」ノ報ヲ得テ之

十六 航海中夜間水兵員ノ當直交代

一、第何部員（何々）交代用意

交代時十五分前ニ之ヲ
令ス

二、第何部員(何々)救助艇
員整列

十七 鈎床乾シ(收メ)方

一、鈎床掛配置ニ就ケ
二、總員(右舷直)(左舷直)
(第何分隊員)鈎床乾セ

ム號令ニテ指示部員(何々)及今迄ノ救助艇員
員査シ終テシメ人員ヲ救助艇員交代セシ
ヲ残シ之ヲ交代セシメ人員ヲ救助艇員交代調

三、士官 鈎床 乾セ

准士官以上ノ鈎床ヲ乾

〔註〕

一、起床後直ニ鈎床ヲ乾ストキハ「總員起シ」ニ次
デ「總員(右舷直)(左舷直)(第何分隊員)鈎床
乾セ」ヲ令ス
二、要スル際ハ本號令ニ先チ諸覆ヲ掛ケ天窓ヲ閉ス
モノトス

一、鈎床 掛 鈎床 括レ クク
二、總員(右舷直)(左舷直)
(第何分隊員)鈎床 括レ
三、鈎床掛配置ニ就ケ
四、總員 鈎床 收メ

甲板士官ヨリ「配宜
シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令

五、士官釣床收メ

十八 釣床換ヘ方

一、總員釣床換ヘ方

二、釣床掛配置ニ就ケ

三、總員釣床換ヘ

釣床換ヘ

此ノ號令ニテ分隊點檢
各分隊先任下士官ヨリ
「第何分隊宜シ」ノ報ヲ
得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「配置宜
シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
甲板士官ヨリ「配置宜
シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

四、釣床掛配置ニ就ケ
五、總員釣床收メ。

[註]

トス 要スル際ハ本號令ニ先チ諸覆ヲ掛ケ天窓ヲ閉スモノ

六、士官釣床換ヘ

准士官以上ノ釣床ヲ交
換ス

十九 物乾索ノ張脱

一、當直(何々モノ)物乾ソ
張リ(ハヅシ)

柄ニ張ル場合

二、登 リ 方 用 意
三、下 リ 方 用 意
四、レ 方 用 意
五、レ 方 用 意
六、解 レ 方 用 意

二十 物乾索ノ張脱

柄以外ニ張ル場合

一、當直（何々）物乾索モノホシヅナ
レ、某所
二、當直（何々）物乾索

二十一 洗 灌

一、總員被服（釣床）（何々）洗灌
用意
二、洗 灌 灌
止 始
メ メ○

二十二 洗灌物乾シ（卸シ）方

柄又ハ兩檣間ニ張リタル物
乾索ニ洗灌被服ヲ乾ス場合

一、總員洗灌物乾シ方
二、「ホイツプ」守レ

三、緩 メ
四、「ホ イ ツ プ」 把 レ

五、張 リ 合 セ
六、引 ケ

七、兩 舷 直 (何々) 殘 レ
八、食 卓 番 洗 灌 桶 乾 セ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

本號令ニ次デ引續キ行
ノトス
ノフベキ作業ヲ令スルモノトス
甲板士官ヨリ「居住甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之

三、緩 メ

四、當 直 (何々) 残 レ
五、食 卓 番 洗 灌 桶 收 メ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

二十三 洗灌物乾シ(卸シ)方

「リツヂローブ」等ニ洗灌
ヨリ取ル
釣床又ハ被服ヲ乾ス場合

本號令ニ次デ引續キ行
ノトス
ノフベキ作業ヲ令スルモノトス
甲板士官ヨリ「居住甲板宜シ」ノ報ヲ得テ之

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

一、總 員 洗 灌 物 卸 シ○
二、「ホ イ ツ プ」 守 レ

本號令ニ次デ引續キ行
ノトス
ノフベキ作業ヲ令スルモノトス

各員洗灌物ヲ物乾索ニ
附ク

一、總員洗濯釣床（洗濯物）卸セ
 二、當直（何々）残レ
 三、食卓番洗濯桶收メ

二十四 濡物乾シ（收メ）方

濡ヌレシ物モノ乾セ
 物モノ收メ

二十五 索具飾リ方及其ノ復舊

本號令ニ次デ引續キ行
 ノベキ作業ヲ令スルモノ
 物ヲ乾ス場合

當直（何々）索具揚ゲ
 當直（何々）索具飾レ

二十六 軍事點檢

一、軍事點檢
 二、解レ。

一、巡檢用意。

二十七 初夜巡檢

二、巡 檢。

二十八 分隊點檢

一、分 隊。點 檢。

二、解 レ。

二十九 艦内點檢

一、艦 内 點 檢 用 意

二、總員居住甲板離 レ

點檢ニ關係ナキ總員居
住甲板ヲ離ル

三、艦 内 點 檢

四、解 レ。

三十 倉庫(彈火藥庫)點檢

一、倉庫(彈火藥庫)點檢用意

二、倉庫(彈火藥庫)點檢

三、解 レ。

[註] 倉庫(彈火藥庫)ノ一部ヲ點檢スルトキハ適宜ノ語
ヲ冠シテ之ヲ指示スルモノトス

三十一 銃器點檢

一、銃器點檢用意
二、銃器點檢用意
三、銃器點檢用意
四、解レ。收點。メ。檢。意

三十二 武器點檢

一、武器點檢用意
二、武器點檢用意
三、武器點檢用意

三十三 短艇點檢

〔註〕武器ノ一部ヲ點檢スルトキハ適宜ノ語ヲ以テ之ヲ指示スルモノトス

三十四 釣床括り方點檢

一、短艇點檢用意
二、短艇點檢
三、解レ。

三十五 釣床括り方點檢

一、總員（第何分隊員）
 釣床點檢用意
 二、釣床掛配置ニ就ケ
 釣床卸セ
 三、總員（第何分隊員）
 釣床點檢用意
 釣床掛配置ニ就ケ
 釣床卸セ

各分隊長ヨリ「第何分隊宜シ」ノ報ヲ得テ之令ス
 釣床ヲ卸シ分隊點檢ノ位置ニ整列シ點檢ヲ受ク
 現ニ當直勤務ニ服シアル者ノ外役員モ同時ニア
 ル受ク

六、解釣○
 床○
 レ○
 收メ○

[註] 次デ「總員（第何分隊員）」釣床點檢ヲ行フトキハ「總員起シ」ノ號令ニモノトス
 モノ此ノ場合ニハ役員ノ釣床ハ別ニ點檢スル

三十五 寝具點檢

一、總員（第何分隊員）
 寢具點檢用意
 二、釣床掛配置ニ就ケ

三、總員。(第何分隊員)

釣○床○卸○セ○

寢具點檢

四、釣○床○括○レ○

五、釣○床○掛○配○置○ニ○就○ケ○
六、總○釣○員○(第○何○分○隊○員○)
七、解○釣○床○收○メ○

各分隊長ヨリ「第何分隊宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
現位置ニ於テ點檢ヲ受ク者ノ當直勤務ニ服シア
ル者ノ外役員モ同時ニ點檢ヲ受ク

三十六 洗濯釣床點檢

一、總員洗濯釣床點檢
二、洗濯釣床點檢

各員ハ洗濯シタル釣床ヲ持チ分隊點檢ノ位置ニ整列シ當直勤務ニ服シアモ同時ニ受ク
現ニ當直勤務ノ外役員モ同様ニ受ク

〔註〕

一、起床後直ニ點檢ヲ行フトキハ「總員起シ」ノ號シ終テ之ヲ括リ收メシム此ノ場合ニハ役員ノ釣床ハ別ニ點檢スルモノトル際ハ本號令ニ先チ諸覆ヲ掛け天窓ヲ閉ス

三、解。レ。

四、士官洗濯釣床
點檢

三十七 甲板用具點檢

一、甲板要具點檢用意

二、甲板要具點檢

各分隊長ヨリ「第何分隊宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス
准士官以上ノ釣床掛ハ各其ノ受持釣床ノ洗濯シタルモノヲ持チテ整列シタク
甲板士官ノ點檢ヲ受列クシテ甲板士官ノ點檢ヲ

各分隊及各役員渡附ノ掃除具並ニ較轍等ノ點檢用意ヲ爲ス
甲板士官ヨリ「點檢用意宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ令ス

三十八 被服點檢

一、總員（第何分隊員）

被服點檢用意

二、總員（第何分隊員）

被服點檢

三十九 游泳

游泳救助艇ヲ準備シ各員ハ各（第何）分隊長ヨリ令ス
各（第何）分隊長ヨリ「宜シ」ノ報ヲ得テ之ヲ

一、總員（何々）游泳用意。

(艦船ニ在リテハ繫船桟端ヲ水面迄降シ上甲板適宜ノ場所ニ救命浮標及救命索ヲ準備ス)

二、游泳。始止。メ。メ。

三、游泳。止。

[註] 游泳實施ニ當リテハ入水前後嚴密ニ人員ヲ調査シ又

入水前短時間體操ヲ課スルモノトス

四十身體検査

某分隊（ヨリ順次ニ總員（某分隊員））

身體（體重）検査（某所）

第四 部署ニ關スル部

號令 詞備 考

一 總短艇出入

一、總員（何々）總艇卸シ方
二、總員（何々）總艇揚ゲ方

[註] 短艇ヲ卸スコトナク唯其ノ準備ニ止ムルトキハ「總員（何々）總艇出シ方」ト令ス

二 總員乘艇

一、總員總艇用意

意

總短艇ヲ卸シ筏ヲ作り
現ニ當直勤務ニ服シア

二、乗艇用意

意

ル者ト否トヲ問ハズ總
員ハ其ノ乗艇又ハ筏ノ乘
著ク舷側ニ整列シ各首
席兵科將校ハ人員ヲ調
シテ艦長ニ報告ス

三、總員乘艇用意

意

此ノ號令ニテ各艇發進
教練ニ於テ本部署ノ撤

四、前進用意

意

去復舊ヲ爲ス場合ニ用
フ

三防火

一、警鐘

戰鬪中ハ總員ヲ防火部
署ニ就カシムルトキノ外
本警鐘ヲ用ヒズ

〔註〕早鐘連打
ノ後約三秒ヲ置キ
三點鐘數回 火災下甲板以下ニ起リタルトキ

一點鐘數回 火災上甲板以上ニ起リタルトキ

二點鐘數回 火災中甲板ニ起リタルトキ

二、待テ

掛。火災場ハ某所
レ。テ。

一、防 水 扉 閉 メ	五、四、三、 解○要○防 レ○具○水 收○出 メ○シ 掛○損 レ○所ハ某所 方	二、待○ テ○水○	四、防 水	三、打○ 方○ 具○待○ 收○(始 メ○)止 メ○
二、本號令ニヨリ中下	一、狹隘ナル水道通過 アノ他事故發生ノ 虞アフル場合ニ本號令ヲ用フ 必要ニ應ジ防水蓆ヲ出 ストキ此ノ號令ヲ用フ	署戰鬪中ハ總員ヲ防水部 限リ本號令ヲ用フ		

二、防 水 屏 開 ケ

甲板以下ノ防水
屏、防水蓋、
堰戸等ヲ閉鎖
スルモノトス

五 防 火 隊 派 遣

- 一、他艦船(陸上)火災、某短艇用意

- 二、防火隊歸艦、要具收メ

六 潜 水 器 準 備

- 一、潛水器出シ方、某短艇用意
- 二、潛水器艇歸艦、要具收メ

七 溺 者 救 助

- 一、人ガ落チタミギ右(ヒダリ)
 救難(キウナン)救命(キウメイ)浮標遣レ
- 二、右(左)救助艇用意
- 三、短艇索守レ

四、「ス リ ツ ブ」遣 レ

卸シ方用意成ルヲ見テ
之ヲ令ス

五、卸 テ

七、救助艇歸艦、某短艇揚ゲ方

〔註〕以下「短艇揚ゲ方」ハ第五運用ニ關スル部ニ在リ

八 出 港

一、當直（何々）鋪鎖縮メ方

舷鋪鎖ヲ近鋪迄縮メ反對
ノ鋪鎖ヲ用意スルモノ
ト但シ「出港用意」ノ
令前ニ本作業ヲ行ハザ

二、航海當番配置ニ就ケ

ルトキハ「出港用意」ノ
前ニ次デ「鋪鎖縮メ方」
ヲ令ス

出港用意ノ令ノ約十分
前ニ令スルモノトス
此ノ號令ニテ測距手モ
配置ニ就クモノトス

三、出港用意（何々出港用意）

四、鋪揚ゲ

五、解レ當直（何々）甲板片附ケ、
鋪用意其ノ儘

鋪作業指揮官ヨリ「近
時機ニ至リテ之ヲ令ス
鋪作業指揮官ヨリ「鋪
宜シノ報ヲ得テ之ヲ
令スルヲ例トス

六、錨用意元へ

一、當直(何々)錨鎖ヲ_{モヤヒヅナ}索ニ

換へ

二、航海當番配置ニ就ケ

三、出港用意(何々出港用意)

四、_{モヤヒ}索(トモモヤヒ)_{モヤヒ}緩メ

出港用意ノ令ノ約十分
前ニ令スルモノトス
此ノ號令ニテ測距手モ
配置ニ就クモノトス

本作業ニ從事シ居ル人
員ハ投錨用意ヲ復舊ス

九 入 港

五、船索(帆船索)放テ
六、解レ當直(何々)甲板片附ケ、
錨用意其ノ儘

本作業ト同時ニ反對舷
ノ錨ヲモ用意スルモノトス

一、當直(何々)右(ヒダリ)錨用意

[註] 双錨泊ノ場合ハ「双錨泊用意」ヲ令スルモノトス

二、入港用意（何々入港用意）

〔註〕
ス 假泊ノ場合ハ「當直(何々)假泊用意」ヲ令スルモノト

三、右（左）錨入レ方

五、錨 鎖 離 レ
四、浮 標 流 セ

六鑄入レ

七
角

卷之三

八、解レ航海配置其ノ儀

一、當直(何々)右(左)錨鎖繫留用意

此ノ號令ト共ニ出スベ
キ錨鎖節數ヲ豫令スル
ヲ例トス

二、入港用意。(何々入港用意)

某 短 艇 用 意

三、右(左)锚鎖繫ギ 方

四、「ボートロープ」把レ

留引放卸セテ

メケメケ(何々)筋索モヤヒ把レ

五、總員(何々)筋索モヤヒ把レ

合機力ニテ筋索ヲ捲ク場
ハ本號令ヲ要セズ

六、解レ。

[註]高錨作業指揮官ハ錨鎖ヲ浮標ニ鎖住シタルトキ片手ヲ
上ゲテ錨鎖宜シト艦橋ニ報ズルヲ例トス

七、解レ。航海配置其ノ儘

機械關係合ノニトキ於人則主後錨
場相當長時間ノ報ヨリ得リテ「錨
鎖宜シ」ノ報得リテ解配トリテ之散置
シ號令ニスルヲノ報ヲ得テ之
鎖作業指揮官ヨリ
シ號令ニスルヲノ報ヲ得テ之
鎖住シタルトキ片手ヲ
例トス

八、當直（何々）_{モヤヒヅナ} 艦 索收メ

（乾セ）

十 橫付

一、兩舷直（何々）右ミギ_{ヒダリ}

舷側 橫付用意 某短艇用意

他艦船ヲ我カ舷側ニ横付スル場合

ヲ令ス
此ノ號令ニテ信號員、
操舵員、測距員、航海員、
當番、鋪作業員、機開海
員等ノ各所要人員ハ其
儘作業ニ從事ス

二、兩舷直（何々）右舷側（左舷側）

橫付 方

横付船我ニ近ヅキタル
トキ之ヲ令ス

三、兩舷直（何々）横付離シ方

四、横付用意元ヘ

横付船安全ナル位置迄
離レタルトキ之ヲ令ス

〔註〕本艦ヲ他船、棧橋、陸岸等ニ横付セントスルトキ又
ハ是等ヨリ離サントスルトキノ號令詞ハ之ニ準ズ

十一 人力操舵

一、人力操舵、救助艇員
操舵員 人力舵輪ニ就ケ

二、人 力 操 舵 元 ヘ

十二 霧 中 航 行

- 一、霧 中 航 行 用 意
 二、當 直 (何々) 霧 中 浮 標
 入 レ (揚 グ) 方
 三、霧 中 浮 標 入 レ (揚 グ)
 四、霧 中 航 行 用 意 元 ヘ

「入レ(揚グ)方用意宜
 スシ」ノ報ヲ得テ之ヲ令

十三 曳 船 被 曳 船

- 一、兩 艦 直 (何々) 曳 船
 (被 カ レ ブネ) 用 意
 二、兩 艦 直 (何々) 曳 船
 (被 曳 船) 用 意 元 ヘ

十四 荒 天 準 備

- 一、兩 艦 直 (何々) 荒 天 準 備
 二、兩 艦 直 (何々) 荒 天 準 備 元 ヘ

十五 鐨 搬 出

一、兩舷直(何々)某錨出シ方
某 短 艇 用 意

二、兩舷直(何々)載炭用意

十六 載炭準備

一、兩舷直(何々)載炭用意

二、兩舷直(何々)某錨收メ方

第五 運用ニ關スル部

號

令

詞

備

考

一 錨鎖伸シ(縮メ)方

一、當直(何々)右(ミヤヒダリ)左(ミヤヒタリ)錨鎖

伸シ(縮メ)方

二、錨鎖伸セ(縮メ)

三、留メ

〔錨鎖伸シ(縮メ)方用
意宜シノ報ヲ得テ之
ヲ令スルモノニシテ伸
ス(縮ム)ベキ節數ヲ錨
鎖伸シトス
ヲ例テ之ヲ令スルモ
ラ得テ之ヲ令スルモ〕

四、解 レ

レトス
「鎖錠宜シ」ノ報ヲ得テ之
令ス「業指揮官ヨリ「鋪

二 繫船柄出シ(收メ)方

- 一、兩舷直(何々)繫船柄出シ(收メ)方
 出シ(收メ)方
 二、上 ウ
 張ハ
 索バリ
 把 レ

三、上 グ

- 四、前アヘ
 後ト
 前後
 張バ
 張バ
 リ
 索
 索
 リ
 守
 守
 把
 把
 レ
 レ
 レ

五、出 セ

(收メ)

[註]出入港部署ノ如ク固有配置ニ依ルトキハ人員指定ノ語ヲ冠セズ

三 「デリック」ノ使用

一、兩舷直(何々)某「デリック」

ミギゲン(ヒダリゲン)ニ用意、
右舷(ヒダリ)左舷(ヒダリ)前進(後進)(停止)

二、側張索リ守レ
ヨコバソリ守レ

三、右舷(ヒダリ)左舷(ヒダリ)前進(後進)(停止)

四、右(左)張バソリ守バレ
左(右)張バソリ守バレ

五、引ケ
メ

(適宜揚艇機ヲ運轉シ上
張索及ボルチエース)
(弛張ス)
場合ニ依リ前(後)張索
又ハ何番側張索ノ語ヲ
用フ

七、側張索張リ合セ

此ノ號令ハ單ニ用語ヲ示スニ止マルヲ以テ指揮者ハ
〔註〕短艇ノ揚げ卸シ「デリック」ノ用意及收メ方ニ應ジ適
宜取捨號令スルモノトス又手先(小旗)信號等ヲ以テ
言令ニ代フルコトヲ得

四 短艇揚げ(卸シ)方

「ダビット」ニ釣ル短艇ノ場合

一、當直(何々)某短艇索ク

通セ

二、某短艇揚げ方用意

三、兩舷直(何々)某短艇

揚ゲ方

タントイサク

四、短艇索把レ

五、張リ合セ

六、合セ

七、引ケ

八、留メ

九、緩メ

十、放テ

十一、短艇索抜ケ

〔註〕

一、「合セ」ノ號令ヲ用ヒザル場合ハ要スレバ「留メ
前(後)索引ケ」ト令ス
メ次デ之ヲ留ムルニハ「留メ」ト令ス

留メタル後直ニ前後短
艇索ヲ分離支持ス

〔註〕

波浪高キトキハ機宜ニ應ジ取捨號令スルモノトス

一、當直(何々)某短艇卸シ方

二、卸セ

二、「合セ」ノ號令ヲ用ヒザル場合ハ要スレバ「留メ
前(後)索引ケ」ト令ス
ハ「引ケ」ト令ス

三、放 テ

短艇ノ龍骨將ニ水面ニ
觸レントスル頃之ヲ令
「ダビット」ニ釣ル短艇ノ場合

五 短艇出シ(入レ)方

- 一、兩舷直(何々)某短艇
- 二、後前アトバ(入レ)方
- 三、後前マヘバ(入レ)方
- 四、後前アトバ(入レ)方
- 五、前後アトバ(入レ)方
- 六、前後アトバ(入レ)方
- 七、前後アトバ(入レ)方

三、引留メケ

四、引留メケ

五、引留メケ

六、引前後張張索索守把レ

七、引前後張張索索守把レ

六 天幕張り(疊ミ)方

一、當直(何々)某天幕

張リ方用意
二、兩舷直(何々)某天幕張
リ方(斜ニ張リ方)

三、登リ方用意
四、登レ

斜ニ張ルトキハ場合ニ
依リ之ヲ要セズ

五、下リ方用意
六、下レ

解レ

[註] 艦裝上登ルコトヲ要セザル艦船ニ於テハ三乃至六ノ
代リニ「止紐把レ」、「卷キ止メ」ト令スルモノトス

一、兩舷直(何々)某天幕疊
ミ方

二、登リ方用意

三、登レ

四、「ボルチエース」守レ

五、下リ方用意

六、下レ、緩メ

七、天幕前後ニ張リ方

各員ハ天幕ヲ放ツト同
時ニ下ルモノトス
ノハ上記號令ノ上ニ
クロウフートヲ加フ

八、「ボルチエース」把レ
九、張リ合セ

「クロウフート」アルモ
「チエース」ノ上ニ「ボルモ
ウフート」ヲ加フ

十、引ケ

十一、留メ

十二、解レ

〔註〕

一、艦裝上登リ方ヲ要セザル艦船ニ於テハ二乃至六ノ代リニ止紐解ケ。「ボルチエース守レ」放
テ緩メト令スルモノトス
二、七乃至十一ノ號令ハ疊ミタル天幕ヲ前後ニ張ル
トキニ用フ

七 操 舵

面 オモー (取) トーリ 舵 カーデ

面 オモ (取) トーリ 舵 カーデ
舵 何 度

操舵員ハ「面(取)舵」ト
復唱シ定メラレタル度
迄轉舵シ舵輪ヲ其ノ位
置ニ保持シテ「面(取)舵
何度」ト報告ス

操舵員ハ「面(取)舵」ト
度迄轉舵シ舵輪ヲ其ノ位
置ニ保持シテ「面(取)舵
何度」ト報告ス

面 オモ (取) 舵 カーデ
舵 何 度

操舵員ハ「面(取)舵」ト
度迄轉舵シ舵輪ヲ其ノ限

戻セー（何度ニ戻セ）

舵三十度】ト報告ス
位置ニ保持シテ【面取】
一方ニ轉ジアル舵ヲ中央(何度)ヘ戻サシメン
トスルトキ此ノ號令ヲ下スモノニシテ操舵員ハ「戻セ(何度ニ戻セ)」ト復唱シ中央(何度)ニ轉舵シ舵輪ヲ其ノ位置ニ保持シテ【面取】舵何度】ト報告

操舵ノ爲艦ノ回頭スル
速度ヲ減殺セントスル
トキ及艦ノ針路ヨリ一
方ニ偏倚スルヲ矯正セ

オモ^面トリ^取カヂ^舵ア^ニテ^抵ア^テー[（]何^ト度[）]

ントスルトキ此ノ號令
ヲ下スモノニシテ操舵
員ハ「面(取)舵ニ抵テ」
ト復唱シテ定メラレタ
ル(指示サレタル)度迄
轉舵シ而(取)舵何度
ト報告ス

後何度

定針路迄ノ度數ヲ指示
スルトキ此ノ號令ヲ下
スヲ例トシ操舵員ハ
「後何度」ト復唱シ適宜
操舵シテ所定針路ニ定
針シ「宜候」ト報告ス

ヨー ソロー
宜 候

カデ チュウ アウ
舵 中 央

イゾグ (シヅカニ)
急ゲ (徐カニ)

舵 宜シ

八 速力及回轉數呼唱

操舵員ハ「舵中央」ト
復唱シ舵輪ノ中央ニ直
シ其ノ位置ニ保持シテ
操舵員ハ「舵中央」ト報告ス
「舵中央」ト復唱シ急速(緩
徐)ニト復唱ス
操舵員ハ「急ゲ(徐カニ)」ト
操舵員ハ「急ゲ(徐カニ)」ト復唱ス
舵ノ使用ヲ終リタルト
キ之ヲ令ス操舵員ハ
舵宜シト復唱ス

一、右舷、左舷、中央
ミギ ヒダリ チュウアウ
二、兩舷、三機
リヤウゲン サンキ

三、前進、後進、前進(後進)用意

四、全速、第何戰速、強速、原速
半速、微速、停止

五、右舷、前進半速
ヒダリ コウシンゲンソク
左舷、後進原速

〔用例〕

主機械ノ發停、速力(回轉)
ノ増減ニ關スル命令ニ對シテハ操舵員ハ
通信器當番ヲシテ所令ノ發信ヲナサシメ機械
室上ヨリノ應答ヲ確メタ
スル上之ヲ發令者ニ報告

兩舷停止

四、回轉幾何

ヒト フタサンヨンゴロク
二 三 四 五 六
ヒタツヒサツヨンゴロク
ナナハチキユージューヒヤク
七 八 九 十 百

〔用例〕回轉

五、黑幾何

六、赤幾何

卷之三

基準回轉數ニ指示回轉數ダケ増加スルトキ之ヲ令ス
回轉數ダケ減ズルトキ之ヲ令ス

七、赤黒ナシ

九測深

八、機械宜シ

一、測鉛用意

二、測深待テ（始メ）

用意出來次第投鉛測深
スルモノトス

測深呼唱

測深者水深ヲ呼唱報告スルニハ左ノ諸號ニ依
ルモノトス但シ本呼唱ハ米式^{メートル}測鉛線ヲ用フル
トキハ米ニテ水深ヲ表ハシ尋式測鉛線ヲ用フ
ルトキハ尋ニテ水深ヲ表スモノトス

一 米(尋)ヨリ二十米(尋)未満迄

ヒト一	ツ一 (尋)	ヒト一 米(尋)	ツ一 ハ
二	二 米(尋)	二 分一	二 ノ
フタ一ツ一	ミークツ一	ツ一	一

八 ヤ一ツ	七 ナナ一	六 ム一ツ	五 イツ一	四 ヨ一ツ	三 ミークツ	二 フタ一ツ一
米ツ (尋)						
八 ヤ一ツ	七 ナナ一	六 ム一ツ	五 イツ一	四 ヨ一	三 ミークツ	二 フタ一ツ一
米ツ (尋)	米ツ (尋)	米ツ (尋)	米ツ (尋)	米(尋)	米(尋)	米(尋)
二ハ						
分一 ノ						
一ン						

三サ	ニフタ	二二	二二	二二
	タ			
十	十	ジ	ユ	十
ジ	六	ユ	一	ジ
八	一	四		ユ
				一
十	八	六	四	十
ン				ン
米	ハ	ロ	ク	米
ジ	チ			ミ
ユ				ン
(尋)	(尋)	(尋)	(尋)	(尋)

二 フ タ	二 フ タ	二 フ タ
十 ジ ユ	十 ジ ユ	十 ジ ユ
九 一	七 一	五 一
米 ク	米 ナ	米 ゴ
(尋) 一	(尋) 一	(尋) 一

測深者測深シ得ザルトキハ左ノ諸號ニ依リ之ヲ報告スルモノトス
一、測レマセーン
ハカ
艦ノ速力大ナルカ若ハ他ノ支障ノ爲測鉛ヲ投下スルモ水深ヲ測得ザル場合

艦ノ速力大ナルカ若ハ他ノ支障
ノ爲測鉛ヲ投下スルモ水深ヲ測
リ得ザル場合

一二、達キマセーン

測鉛線ノ全部ヲ操出スト雖確實ニ水底ニ達セザル場合

二、入レ方用意

電動測深儀ヲ使用スル場合張出桿準備シアラザルトキハ此ノ號令ト共ニ之ヲ用意ス

三、測深間隔……分

測深間隔ヲ定ムル場合
之ヲ令ス

四、入 レ (測 深 始 メ)

「用意宜シ」ノ報ヲ得要
スル時機ニ之ヲ令ス

五、測深待テ

第五 運用ニ關スル部

六、測 深 止 メ

張出桿ヲ收ムルニハ別
ニ之ヲ令ス

〔註〕音響測深儀ヲ使用スル場合ハ「入レ方用意」ヲ令セズ
又「入レ」ノ代リニ「測深始メ」ヲ令スルモノトス

第六 雜ノ部

一 航海燈ノ點滅

一、航海燈用意

（日沒前適宜之ヲ令スル
モノトス）

二、航海燈出セ

三、航海燈撤ケ

二 移動物ノ固縛及解縛

當直(何々)移動物縛レ(解ケ)

三 窓ノ開閉

一、居住(某)甲板(以下)ノ窓
(盲蓋)開ケ(閉メ)

二、右(左)舷ノ窓(盲蓋)開ケ(閉メ)

四 天窓ノ開閉

天窓(マド)開ケ(閉メ)

五 短艇ノ準備

某艇員(何々)某短艇用意某所

短艇ニ對シテ令スルヲ常トスレドモ場合ニヨリノ號令ハ水上ニアル

六 提燈ノ準備

提燈ハ分隊毎ニ用意スルモノニ對シテモ令ス

當直(何々)提燈用意

リ「ダビット」ニ釣シアラコトヲ得

七 風通入レ(直シ)(收メ)方

一、事業部(何々)風通入レ某所
二、事業部(何々)風通直セ
三、事業部(何々)風通收メ

八 風取出シ(收メ)方

風 ザ 取 出 セ (收 メ)

九 軍 歌

一、總員軍歌用意
二、總員軍歌ノ位置ニ整列(某所)

三、軍 歌 始 メ
四、軍 歌 止 メ

十 武 技 (體 技)

一、武技體技(遊戲)(武技體技)許ス
二、武技體技(遊戲)(武技體技)止メ

十一 被 服 手 入

一、總員(何々)被服手入
二、總員(何々)被服手入止メ

十二 奉給(何々)渡シ方

一、總員印形用意

二、總員俸給（何々）受取レ（某所）

各兵種等級順序ニ受取
ルモノトス

十三 取上物渡シ方

一、取上物渡シ方用意

二、取上物受取レ

十四 酒保開始

酒保開始

賣酒保ニ於テ飲食物ノ販
用ヲ許ストキ此ノ號令ス

十五 入浴

總員（何々）風呂ニ入レ

先任者ヨリ順次入浴ス
ルモノトス

十六 衛生酒渡シ方

兩舷直（何々）衛生酒受取レ

主計科ヨリ「準備宜シ」
ノ報ヲ得テ之ヲ令スル
モノトス

第七 機關科特用ノ部

一 日 課

備 考

號 令 詞

備 考

機 關 科 課 業 整 列

課業始メノ際機關科員
ヲ定所ニ整列セシムル
トキニ用フ

機 關 科 課 業 休 メ
機 關 科 課 業 へ 就 メ
機 關 科 課 業 止 メ
機 關 科 課 業 止 メ

他ト混同ノ虞ナキトキ
ニ限リ「機關科」ノ語ヲ
略スコトヲ得

食卓番（浴室當番、上陸番）上レ
食卓番（浴室當番、上陸番）上レ

課業止メノ前準備ノ爲
ニ用フ

機 關 科 巡 檢 用 意

巡後定時止業後、初夜
前又ハ臨時ニ各部
整頓セシムルトキニ

機
關
科
巡
檢

右巡檢ノトキニ用フ

何總號罐點火用意
（肖火）
（至急點火）

(至急點火)
(消 火)

何	號	何	(至急消火)
機	罐	機	(埋火)
械	主	械	(起火)
	(補助)		
	モト		
	ト		
管			
	用		
	意		
止ヤ	始ハジ		
メ	メ		
(始メ)	(機メ)		
機用			
意			

主蒸氣管ノ緩管ニ關シ
用フ

回	軸	シ	試
轉	管	ウン	運
裝	衛	テン	轉
外ハ ヅ セ	置 締シ 掛カ	帶 止 メ	(始 用 メ)
	ヌ	弛ユ ル	
ケ	メ		意
			(主) シ用 フ機械ノ試運轉ニ關

密	閑	排	氣
出	港	用	（始）メ
何機械使用	減軸（片舷）航行	、用意	（止）メ
減軸（片舷）航行	止メ	意	用意
（片舷）航行	（始）メ	意	意
（止）メ	用意		
何	「タ	ル	ビ
「タ	ル	ビ	ン」
ル	ビ	ン	用
巡航	主	出	港
ガ	「タ	二	對
如	ル	シ	シ
キ	ビ	ム	機
或	ン」	ル	關
ハ	用	コ	部
巡航	フ	ト	準
運轉	主	ニ	用

何「タルビン」嵌メ方用意	何「タルビン」ハツシメ用意	(使用始メ)(止メ)
主機械蒸氣噴口開閉ニ 主「タルビン」ヲ主軸ニ嵌合 ニ用フ	主「タルビン」又ハ巡航 脱離セシメントスル場合 ニ用フ	中主「タルビン」ヲ使用 ニ用フ
際シ用フ	主機械蒸氣噴口開閉ニ 主「タルビン」ヲ主軸ヨリスル場合 ニ用フ	主「タルビン」ヲ主軸ニ嵌合 ニ用フ

回轉何百何十……	何機械（唧筒）用意	課電用（閉シス）
數ヲ指示スルニ用フ	補助機械ノ使用ニ際シ用フ	主二次電池ノ課電ニ關
主機械補助機械ノ回轉		

汽 灰 毛
吹 掃 捨 糸
(止)除 (始)用 拔^ヌ 插^サ (止)ヤ
(メ)用 (メ)メ ケ メ

幕 力 水 煙 馬 蘇 真 補 給 水 空

張ハ 計^{止ヤ} 切^{落オトセ} 上^{止トメ} 送

レ レ レ ゲ レ

主復水装置真空ノ管制
ニ關シ用フ
「タルビン」車室、蒸氣管等ノ疏水ヲ
排除スル際用フ
シ主機械ノ馬力計測ニ關
用フ

罐汽吹掃除ヲ行フ場合ニ用
ノ主機械注油用毛糸插入
ノ際用フ
フ捨テヲ行フ場合ニ用

汽 灰 毛

吹 掃 捨 糸

(止)除 (始)用 拔^ヌ 插^サ (止)ヤ
(メ)用 (メ)メ ケ メ

意 意 セ

入港用

意

機戒宜

3

卷之三

1

交代用

意

交代

次配交
直置代
解ニ員
就解
レケレ

四
雜

何々へ電流送レ

第七 機關科特用ノ部

各部交代済ノ届出テア
リタル後解散セシムル
トキニ用フ

艦橋ヨリ「機械宜シ」ノ
トキ諸種ノ準備ヲ行ハル
シムル爲各部ニ令ス
艦橋ヨリ「機械宜シ」ノ
命令アリシトキ主機械
ヲ使用セザルコトヲ周知セシムル爲各部ニ令ス

何々ノ電流停メ
水壓送レ(停メ)
要具點檢

電流ノ送リ方ヲ停メシ
ムルトキニ用フ

第八 信號法ニ關スル部

手先、小旗又ハ燈火ヲ用ヒ運用作業ヲ指揮ス
ルニハ左記信號法ニ據ルモノトス

本信號ヲ行フ場合要スレバ受令者ノ注意ヲ喚
起スル爲小笛短一聲ヲ用フルコトヲ得

一 手先信號法

意味

號

圖

解

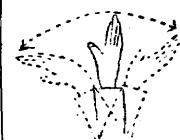
整備(了解)

高掌ヲ前ニ向ケ頭上ニ



止メ(否)

腕ヲ前ニ向ケ手首ヲ二三回横
左右ニ振ル



不了解

附ク掌ヲ前ニシ耳ノ後ニ



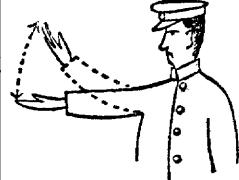
揚ゲ

來レ(近寄レ)

腕ヲ前ニ伸シ掌ヲ下
ニシテ二三回招ク

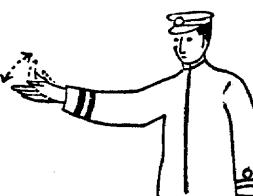


腕ヲ水平ニ前ニ伸シ
ニシテ二三回シ



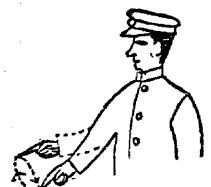
卸セ（下ゲ）	
腕ヲ水平ニ前ニ伸シ 下方ニ動カス	握拳(手ノ甲ヲ) ヨリ前方ヘ數回胸 部

緩メ（伸セ）	
場合ニ伸ス ハ静ニ動カス ハ速ニ動速 カス	ク動カス(静ニ伸ス) ハ小サ

捲ケ（前進）	鋪鎖出セ
仰腕ヲ前方約六十度ノ 回廻ハス（或ハ小笛數） （前方約六十度ノ 二聲）	招手ノ作業員ノ 手ノ作業指
	

(捲キ) 戻セ

腕ヲ前ニ伸シ前方約六十度ノ回廻ハス(或ハ小笛數ノ長一聲)



(停止テ)

腕ヲ上方ニ曲グ(或ハ首作業員ノ前方ニ伸シ掌ヲ作短一聲)



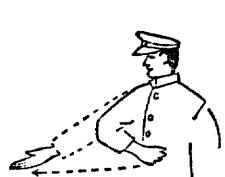
(捲リ) 留メ

腕ヲ前方ニ伸シ掌ヲ作握ルノ方ニ向ケ掌ヲ之ヲ作



放テ

先ヅ握拳ヲ胸部ニ持伸來次ニ腕ヲ掌ニ持向ニスト同時ニ掌ヲ上方ニ上



引
ケ

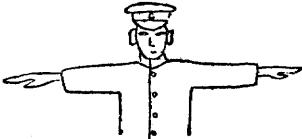
腕ヲ水平ニ前ニ伸シ
大キク動カス

右舷々梯ニ附

片腕ヲ垂直ニ上グ

左舷々梯ニ附

兩腕ヲ垂直ニ上グ

揚 ゲ 方 用 意	固 有 繫 船 術 ニ	兩 手 ヲ 頭 上 ニ 交 又 ス		
-----------------------	----------------------------	---	---	---

二 小旗信號法

右舷 <small>(ヒダリ)</small>	青(赤)旗ヲ上方ニ向ク
前進 <small>(ヒギ)</small>	青(赤)旗ヲ下方ニ向ク
右舷 <small>(後進)</small>	青(赤)旗ヲ下方ニ向ク
後進 <small>(左舷)</small>	青(赤)旗ヲ水平ニス
停止 <small>(左舷)</small>	
錨 鎮 離 レ	特製小旗ヲ上 <small>ゲ</small> 其ノ儘ニ保ツ
入 レ	右小旗ヲ急速ニ下 <small>グ</small>

〔註〕 本項ノ信號ハ主トシテ卷揚機械ノ發停ヲ命ズルトキニ用ヒ命令若ハ傳達ノ通達ヲ見テ小旗ヲ撤去ス

浮標 <small>(何々)入</small>	手旗ヲ上 <small>ゲ</small> 其ノ儘ニ保ツ
浮標 <small>(何々)入</small>	右手旗ヲ急速ニ下 <small>グ</small>
レ <small>(計)レ</small>	

三 燈火信號法

整備 <small>(了解)</small>	燈火ヲ高ク上 <small>グ</small>
伸セ <small>(緩メ)</small>	燈火ヲ二三回上下ニ動カス
留メ <small>(待テ)</small>	燈火ヲ以テ一二回小圈ヲ畫ク

〔註〕 一、本項ノ信號ハ主トシテ錨作業ニ用フ
二、本項ノ信號ヲ用フルトキハ附近ニ紛ラハシキ燈火ヲ現ハサザル様注意スペシ本信號ハ牛眼燈、提燈火

若ハ之ニ類似ノ燈火ヲ以テ行フ

艦内號令詞終